

## 研修報告書No.6

所属：杏林大学医学部付属病院 研修医  
研修先：梶原町立国民健康保険 梶原病院  
津野町立国民健康保険 杉ノ川診療所

私は平成 29 年 6 月 26 日から 4 週間、高知県高岡郡にある梶原病院、杉ノ川診療所で地域研修をさせていただきました。

私は高知大学医学部を卒業しており、学生の時にも地域医療を学ぶために一度梶原病院へ伺ったことがありました。研修医になり、所属研修病院の地域研修の枠で高知県を選択することができることを知り、学生時代を過ごした高知県に再びお世話になることにいたしました。

梶原町は愛媛との県境にある人口 3600 人程度の町です。65 歳以上の人口は 42.3%(2015 年)であり、全国の高齢化率(26.9%)や高知県の高齢化率(32.8%)と比較しても極めて高い割合となっています。実際に病院を受診する患者さんは 70 代以上の方が大半を占めていました。患者さんのなかには高齢夫婦のみ、または独居で暮らしている方も多く見受けられました。そのため、梶原病院は町役場の保健福祉センターを同じ建物内に併設し、医療・行政・保健福祉・介護が連携して地域住民の暮らしを支える仕組みをとっていました。保健福祉センターは病棟の 2 階と廊下でつながっており、退院後に自宅復帰が困難な患者さんが、施設の入居や家族の同居準備ができるまでの期間に入所される、といった具合に連携がとられていました。また梶原は四国カルストに面した土地で、冬場は雪深くなることもあり、高齢者が越冬目的に入所することもあるそうです。こうした患者さんひとりひとりの生活背景を加味して、退院後の療養環境を協議するケアプラン会、地域ケア会議に毎週参加させていただけたことは、地域医療を学ぶ上で大変勉強になりました。

今回の研修中には、年に 1 回梶原病院主催で開催される「病院と町民をつなぐ会」にも参加することができました。つなぐ会では、「守ろう、地域医療のある暮らし」と題して、救急車の呼び方、AED の使い方、小児科受診の判断方法、他県と比較した梶原町の地域医療の在り方に関する講演が行われました。梶原病院は 24 時間救急患者さんの受け入れを行っていますが、救急医療が確保されている現状は、都市部から離れた地域では決して当たり前のことではなく、今までの病院の努力と町民の方々の協力の上に成り立っているということを、改めて考える場となっていました。私は研修中に高知市内まで救急搬送に同乗する機会があり、その搬送中の往復約 3 時間はその地域の救急車が不在となってしまう、という状況を身をもって体験することとなりました。そのために救急隊を含めた医療者は搬送時間を短縮する努力をしており、地域住民の方には、つなぐ会のような講演を通して適切な医療資源の使い方を知ってもらう必要があるのだと感じました。

高知県や梶原町が置かれている高齢化や限りのある医療資源といった問題は、近い将来に日本全体も直面する問題であると考えられます。地域住民と協力して守っていく地域医療という考え方や、その成功例としての梶原町の高い検診受診率(76% : 全国平均 32%)という取り組みを高知から全国に発信していくことで、高知県が地域医療の先端を担うことに繋がるのではないかと思います。

4週間の研修の中で、訪問診療で実際に住民の方の暮らしを見ることができたり、地域のかかりつけ医として幅広い疾患の診療や処置に携わらせていただいたりと、とても有意義な研修を送ることができました。今回学ばせていただいたこと、感じたことを今後に生かしていきたいと思います。県外からの研修の受け入れをしてくださり、ありがとうございました。4週間大変お世話になりました。